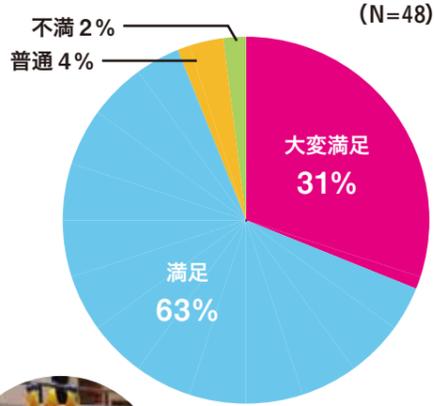


● フォーラムに参加してどうでしたか？



(N=48)



ムズムズくんもアンケート回収のお手伝い!

● 満足度の理由を教えてください。

市内の魅力を知る機会となった / 「kawaii」がかわいい! / 伝えるものを持っている方々の言葉、目線が学びになった / 聞けばかりでなく、次のアクションにつながる工夫を / 講師のお話が大変興味深かった / 内川の魅力をより深く知れた / 内川だけでなく、昔の港(西漁港)も出てほしかった / 切り口が面白い / 基調講演もパネルディスカッションも堅苦しくなく、良かった / 時間配分に改善の余地あり / もう一人別の見方の講演を聞いたかった / 外からの目線で見たまちの良さを教えてもらった / 路地の良さのポイントを受け止めることが出来た / 専門家による目線、感覚等を知る機会となった / 気付いていない視点を気付かせてくれた / 何気ない日常風景の重要性を感じた / 基調講演がとても面白く 気付きがあった / 先生方のパワポ資料がいただければなお良かった / 主催者の工夫(聴かせる工夫)が際立っていた / 内川を歩きたくなった / マカロン理論を知ってしまった! / おもしろくてあつという間だった / 他の地域との的確な比較があったのがよかった / 地元新湊の古い時代の話が良かった / 射水在住の者ではないが、全体を通じて、まちの魅力を議論されていたため、わかりやすく楽しめた / 登壇者それぞれの切り口が、それぞれに良かった / 今後の活動の大きなヒントをいただいた / 路地に着目されていること、とても共感する / 陣内先生に十分、新湊内川の魅力を話していただき、自分の価値観に自信がもて、共有でき、後押しされた / 是非、次回は小杉地区で! 最近、市内でフォーラムなどが無いので / 丸谷先生の仏生寺の紹介がうれしかった! / 期待はずれだった。パネルディスカッションは必要だったのか? / 眠くなった。もっと風景を引っ張りだして欲しかった...など。

● 今日改めて感じた射水のよさ、今後やってみたいこと、感想など自由にお書きください。

どういう手法で魅力を伝えるか、広めるか、動き出すかをどれだけゆるくできるかを考えたい、実行したいと思えた / 路地とモクミツは一体のものだと思う。路地の魅力をもっと深めてほしかった。焦点がぼけたのが残念! 路地ごとに駄菓子屋通り、アクセサリ通り、ファッション通りなど、小さなお店や体験が並ぶといい / 県内・湾岸まち歩きツアー / 意図的ではない街並みが調和があって美しい / 古地図をさがす / 小杉も新湊も災害に遭遇した事がなく、古い街並み、道路、路地が残され、心地よさが感じられるところ。再度街歩きをして見直してみたい / 良いところを発信していく事が大事。積極的に保全する事も大事 / イベントをする時は年に数回の行事ではなく、毎日訪れる人達に喜んでもらえるものと考えてほしい / 何気ない街角の景色を観光の集客に活用するには、もっと深い市の取り組みが求められると思う。陣内先生の話の内容を精査して、取り入れてほしい / もっと地域住民に聞いてもらいたい話だった。沿川、各町内で、出前講座をしてもいい / 広い会館よりも、古民家など狭い空間や現地視察しながらのフォーラムも面白いと思った / 内川沿いを散歩した時に漁師さんが漁具の手入れをした。当然の事だが、なりわいを感じて新鮮だった。同時にのぞき見をしたようでばつ悪さも感じてしまった / 土地の記憶を知る事は、私たちの生活を豊かにしてくれるものだと思って / 街の魅力は、歴史とともにあり、その歴史的なものを、うまくいかしていくことで、更に高まって行くものであると実感した / 長時間かけて出来た物を一瞬のうちに壊すことが忍びない。職人の作る良い物に見合ったお金を使い、気持ち良い使い心地を楽しみ長く大切にしたい / 寺や神社を中心にしたまちづくりができないかと感じた / さびれた町、さびれた良さを生かす。駐車場(住民や観光客の)をどこに作るか。地元の生活者(住民)との折り合いをどうするか / 新湊港町で生まれ外で2時から、タモを使い、又、船をむすぶロープを引き上げロープに付いている、カニをとり、バケツに入れ、近所の人々と活発にすごしていた私! 路地では、家のうら口(せど)で隠れて、子ネコを飼って親に見つかり、しかられたりしたのを思い出した。幼なじみに連絡とりたくなった...など。

新聞掲載記事

2014.7.6 北日本新聞

2014.7.9 朝日新聞(富山県版)



開催テーマ どんな風景にも、必ず物語がある。

「射水は観光するところが少ない」射水に住んでいる方からそんな声をきくことがあります。

いわゆる「王道」の観光スポットともいえる「海王丸」や「新湊大橋」ばかりでなく、実は、私たちが毎日見たり、歩いたりしている「路地」も、観光スポットになりうるのではないのでしょうか?

そこで、今回のフォーラムは、みんなが知っている「王道」に対して、あまり知られていない「路地」にスポットをあてることにしました。

特別ゲストに、NHKの人気番組「プラタモリ」にも何度か出演されている建築史の専門家・陣内秀信氏をお迎えするほか、建築、アート、路地歩き、まちづくりなどのマニア的視点(=「路地っ子」の視点)を持った県内で活躍するキーマンとともに、新たな射水の魅力を再発見し、これからの観光のあり方についても考えていきたいと思います。

主催：株式会社ワールドリー・デザイン
後援：射水市 射水市芸術文化協会
協力：射水市観光ボランティア連絡協議会

あゆの風(新湊)、つつじの会(小杉)、野の花会(大門)、
ふるさと会(大島)、とねりこの会(下)
公益社団法人 富山県建築士会 射水支部
旧北陸道アートin小杉実行委員会
NPO法人水辺のまち新湊

プログラム 敬称略

- 13:30 開演 (司会) 岩木 さち子 フリーアナウンサー
主催者あいさつ
明石 あおい (株)ワールドリー・デザイン代表取締役
開催地あいさつ
夏野 元志 射水市長
- 13:40 基調講演①:
まち歩きから見えてくる地域の物語・魅力
陣内 秀信 法政大学 デザイン工学部教授
- 14:35 基調講演②:
何気ない風景が地域資源となる ~富山での発見
丸谷 芳正 富山大学 芸術文化学部教授
- 15:25 パネルディスカッション:
世界に誇りたい射水の魅力について
(パネリスト)
丸谷 芳正 富山大学 芸術文化学部教授
宮崎 一郎 北前船新築曲輪夢倶楽部
永森 直人 旧北陸道アートin小杉実行委員会代表
宮林 円華 (株)ワールドリー・デザイン kawaii 担当
(コメンテーター)
陣内 秀信 法政大学 デザイン工学部教授
(コーディネーター)
明石 博之 カフェ・uchikawa 六角堂 オーナー
- 16:40 全国から集まった射水の写真を紹介!
- 17:00 閉会あいさつ
本郷 俊作 NPO法人水辺のまち新湊 理事長



総合司会 ♪
岩木 さち子
フリーアナウンサー

主催者あいさつ ♪

明石 あおい (株)ワールドリー・デザイン代表取締役

みなさん、こんにちは。本日はお忙しい中いらしていただき、ありがとうございます。

このフォーラムは、「射水市ビューポイント発掘・発信事業」という射水市の委託事業の一環



で、弊社が主催するものです。弊社は「世間をデザインする」会社として、まだ3年目です。東京の大学を出て、まちづくりのコーディネートをしていたのですが、4年前に富山に帰って来ました。

<見方を変えて宝物を見つける>

各地のいろんな方たちに育てていただきましたが、その中でいつも感じていたことは、地元の人には当たり前のことが実は地域の宝物だということでした。高校までは富山市に住んでいまして、射水市については新湊高校と太閤山ランドくらいしかイメージにはなかったのですが、Uターンして改めてお邪魔してみると、大島のヘチマ、小杉の街道、新湊の内川などを素晴らしいと感じました。射水市のこの事業は、今までの「観光スポット」から見方を少し変え、日常に注目し、そこに新しい観光の芽を探そうという想いで取り組みました。20代の女性が「かわいい」と思う視点で地域の魅力を発掘してみよう。その道のプロには当たり前のものでも、別の視点で見るとキラキラした宝物になるのではないかと、という考え方で取り組みました。

<小さな会のつもりがフォーラムに>

最初に言ってしまうと、本来はこのようなフォーラムを開催するつもりはありませんでした。専門家にお集まりいただいて小規模の討論会をと思っていたのですが、イタリアの都市や建築にお詳しい陣内先生に来ていただくことになり、少しでも多くの方にお話を聞いていただけたらということで急遽、企画した次第です。たくさんの皆さまのご協力と力強いご支援をいただきまして、本日の開催に至りましたことを改めてお申し上げます。

今日は、射水市だけではなく、日本や世界の何気ないことが観光になる例を紹介されると思います。みなさんにとって、今後の観光を考える上でのヒントになればと思います。本日は本当にありがとうございます。

開催地あいさつ ♪

夏野 元志 射水市長

みなさんこんにちは。今朝は、梅雨時期で雨が降っていましたが、フォーラムの開催に合わせるかのように日が照ってきました。



今日のフォーラムは「射水市ビューポイント発掘・発信事業」の一環ということで、今までとは違った視点で自分たちのまちを見つめようという楽しみな取り組みです。

<探検しながらまちの魅力を発見>

特別ゲストの陣内先生はイタリア建築・都市史がご専門です。実は平成21年から2年間ほど「プラタモリ」という番組にも出演なさっていました。タモリさんはまち歩きが趣味ということで、江戸時代や明治時代の古い地図を片手に専門家とまちを歩いて、独自の視点で街並みの変化を見抜く。いわば、探検しながらまちを紹介するという番組でした。午前中、内川を歩いていただいたということで、先生の目にどのように映ったか、感想などをいただければ大変ありがたいと思っています。

また、富山大学芸術文化学部の丸谷教授は、町家をリノベーションし魅力ある空間にする取り組みを、学生さんと共に進めていらっしゃいます。魅力づくりと発掘にご尽力されているお話を楽しみにしています。

その後のパネルディスカッションも、射水のまちづくりに関わる多彩な顔触れの方々に登場していただくことになっております。魅力を語るという意味で、大変楽しみなディスカッションです。

<北陸新幹線開業にむけて>

ご案内のように、来年3月には北陸新幹線が金沢まで開業します。たくさんの方が北陸・富山に来られるだろうと思いますが、一人でも多くの方に射水の地に来ていただいて魅力を知り、感じていただきたい。そのためにも地域の資源をブラッシュアップして、発信していかなければなりません。今回のフォーラムでは代表的な観光スポットだけではなく、私たちが普段生活をしている路地裏が新たな観光スポットになり得るという、「気付き」が得られると期待したいと思います。

<何気ないところにある資源を見つめ直す>

みなさんが生活している何気ないところにある様々な資源を見つめ直して、磨き上げ、発信していく活動を起こしていく一助になれば大変ありがたいと思います。皆様方にとって実りあるフォーラムになりますよう祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

基調講演1 ♪

まちを歩くことで見えてくる
地域の物語・魅力について

陣内 秀信
法政大学デザイン工学部教授



<はじめに>

ご紹介いただきました陣内です。まちを發展させて素敵なまちづくりをやっているというフォーラムに呼んでいただき、本当にありがとうございます。

先ほど挨拶された明石あおいさんと後でコーディネーターをされるご主人・博之さんのお2人の熱いお話を聞いて心躍りながら東京から来ました。午前中ご案内いただき、ここは凄いと本当に思いました。何か起こるぞという予感が、たっぷりするわけです。

市長さんは「プラタモリ」のことを話してくださいました。確かに我々は「都市を読む」「都市の面白さを炙り出す」ことを30何年も研究して来ましたが、タモリさんにかかればもう2年くらいで、全国の都市の面白さをパッと理解されるようになります。プロデューサーの力もあってですが、全国でこのような試みがされ始めようとしています。そのトップランナーとしての射水のみなさんとディスカッションできるのを楽しみにやってきました。

<東京都：谷中・神田川>

つい最近経験したことから話したいと思います。左側が東京の谷中で、右側が神田川ですが、こういう風景はどこにでもありました。谷中は1980年代半ば頃に、谷根千というグループに「発見」されたんですね。神田川は我々が80年頃から船で周り始めました。今や東京で人気のあるスポットも、1970年代まではほとんど知られていなかったんです。



<静岡県：稲取>

個人的なことで恐縮ですが、法政大学出版局の理事長を務めていまして、社員旅行と称してかつて賑わった稲取温泉へ行きました。旅館の仲居さんに聞くと「地元には何もありませんよ、お客さん」と。せっかく「発見」しようと思って行ったのに…。温泉街を抜けると、湾の入口の高台に神社がありました。下りていくと神社からは漁港が見え、神社の裏は路地が続いています。やはり「空間の物語を読む」ということが重要です。源頼朝が来たという言い伝えがある場所がここです。

この漁港を最初に見たとき「まるで野外劇場のようだ、こんな港町が日本にあるのか」と仰天しました。例えば、真中にステージを浮かべれば、円形劇場のように使えるだろうと思いました。このように船が浮かんでおり、高台には神社がある。ところが、観光スポットとしては朝市だけが有名で、客はまちなかへ流れません。回遊性を出せればいいまちになるのにも思いました。また、稲取は江戸城などの石材の積み出し港でしたが、切り出したけれど運ばれなかった石がまちなかに、あたかも遺跡のように置かれています。



<イタリア：ヴェネツィア>

「まちを発見する」「小さなまちに価値がある」というのは、ヴェネツィアに留学した学生時代にエグレ・レネータ・トリンカナート先生に師事して学びました。彼女は1948年、『Venezia minore(小さなヴェネツィア)』という本でデビューした学者。今は、裏路地や裏の運河を楽しみますが、当時はサンマルコ広場や、立派な博物館や教会しか観光しなかったんです。路地などに着目した、おそらく世界で最初の人だと思います。



もう一つ「迷宮」が面白いんですね。歴史的にできたまちは、非常に複雑です。城下町は強引につくったため整然としていますが、ヴェネツィアは大運河、小運河など実に複雑で「読み解く」ことが必要になります。都市はまさに縦糸と横糸でできている「織物」なんですね。読み解くことは本当に面白いとヴェネチアで学びました。

<ヴェネツィアと内川の共通点>

内川を巡っていて、神社に続く大きな通りから裏に回り込むとクランクに折れ曲がる狭い路地があって、広い通りや隅切りは、おそらく大火後の復興事業でできたんでしょう。そこに町家が密集して建っていて、道と町家が連動して景観をつくっているのが特徴で、「迷宮」を巡る面白さがあると思います。ヴェネツィアも水に浮かんでいる迷宮で、単なるノスタルジーではなくて未来につながる創造性を持っている点が重要です。

<ヴェネツィアの面白さ>

まっすぐな運河は新しく、曲がっている運河は古い。建物が水面に接しているのは古くて、間に空間(道路等)があるのは新しいんです。ヴェネツィアの場合、初めはたくさんの島からなり、橋がなかったので船で行くしかあ

りませんでした。後から橋をかけて島づたいに歩けるようにしました。車で通っては楽しめないものが、ゆっくり歩くといろんなところにあります。住宅の窓も歩く人を意識して設けられ、靴職人の工房には靴の形の看板が出ています。大きなお屋敷に、内側に立派な中庭があって、アラブ風の列柱が立ち、雨水を蓄える水槽があります。

<漁師町の路地空間はコミュニティの場>

アグロツーリズム(=農業観光)が注目されますが、漁師が漁船に観光客を乗せて漁を体験させ、戻ってきて新鮮な魚料理を食べさせるというものもあります。歴史のあるまちは構成する要素が多く、変化に富んでいるんですね。近代に新しくつくられたまちは単純で車にはいいんですけど、歩いて味わいがいいのです。漁師さんいっぱい住んでいるこの港町は、オリブオイルの移出港でもあり、住宅も綺麗です。18世紀のバロック時代に、つくられたテラスのついた大きな邸宅などの歴史的空間を活かしながら、現在の生活に合うように改造して住んでいます。裏側には袋小路がいっぱい。日本でも漁師町ならなおさら、路地空間がコミュニティの場になっています。そういう路地、水辺、浜辺の外部空間も大事です。石造りなので、木造の日本とは雰囲気は全然違いますが、外部空間の重要性は変わりません。

<東京の空間を読み解き、楽しむ>

イタリアでまちの面白さをいろいろと体験して東京に戻り、1976年の暮れから東京の調査を始めました。その結果を取りまとめたのが1985年刊『東京の空間人類学』です。当時「まちが近代



化して特徴的な歴史の痕跡はない、東京を調べるなんて馬鹿じゃないか」と言われました。ところが始めたらそんなことはなくて、地形は変わらないんですね。川は蓋をされていることはあっても、場所自体は変わりません。道路(街道)も変わりません。古地図を持って歩くと、現在と重なって空間の全体像・物語が浮き上がって来ます。日本のまちでは建物だけでは無理ですが、道のネットワークや敷地割、神社や寺などで建物が建て替えられていても、探ることができます。東京は山手線の内側は、ほとんど江戸時代を踏襲してきたんです。六本木ヒルズの開発などで敷地が集められたことは例外的にありますが、あらゆる場所が語りかけて来ます。大名屋敷・加賀前田藩の敷地は東大のキャンパスになっています。

大名屋敷・加賀前田藩の敷地は東大のキャンパスになっています。たとえ建て替わっていても空間や場所の雰囲気は継承されています。

<谷根千にみる地域の多様性>

84年に谷中で森まゆみさんなど3人の女性が「谷根千」というグループをつくり、自分たちの地域(谷中・根津・千駄木)を描き出す冊子を始めました。それまで谷中は全然知られていませんでした。木造建築が主体でお寺が多く、路地があり変化に富んでいるけれど、有名なものはそんなにありません。でも、職人、アーティスト、商売人など多彩な人が住んでいます。地域の多様性、これが重要です。多様性が失われて来ると地域の活力が衰えてきます。江戸時代の路地は袋小路しかなかったんですが、谷中の路地は抜けられて回遊性がある。そして、おかみさん達が井戸端会議をする井戸もあって、コミュニケーションの場になっています。木造住宅もいろんな種類があります。お洒落な洋館みたいなものや大谷石の蔵、武家屋敷もあつたりします。

<東京スリパチ学会>

最近東京では、まち発見の動きがさらに加速しています。そのきっかけは、2004年に出たタモリさんの『TOKYOの坂道美学入門』と中沢新一の『アースダイバー』(05年刊)です。そして「東京スリパチ学会」の連中は新潟も調べています。彼らが最も愛するのは、変わらない都市の骨格を発見すること。甲州街道を青梅で北に折れ、坂を下ると窪地に松葉屋があつて、池の周りが花柳界となっていました。今は、風情のある料亭街となっています。東京は近代化しましたが、探していくと痕跡がたくさん潜んでいます。

<静岡市清水区>

最後にもう一つ、静岡市に合併した清水のことをお話しします。日本では流通の船が鉄道に代わり、さらにトラックになり、港に産業道路を通してしまいました。それをしなかったところが今、注目されているのです。地元の保全運動が実ったのは瀬戸内では鞆の浦。内川は水面が減ったとはいえ、港はちゃんと残っています。

清水は家康の時代以前からの港町でした。川の奥の方に古い湊がありました(川は土を河口に堆積するので)が、中世には河口近くに移転しました。古い地図で見比べてみましょう。ここが一番古い湊、これが河口に移転した港、そしてこちらが現在の港です。三保の松原はこの辺です。要所要所に案内板を設置することは重要です。情報を正しく発することによってイメージもよく伝わります。蔵の利用も非常に大切です。

基調講演 2

何気ない風景が地域資源となる ～富山での発見

丸谷 芳正
富山大学 芸術文化学部教授



<はじめに>

まず、インパクトのあるプロフィール写真について。私の専門は家具です。家具の先生として骨格モデルと一緒に写しました。

陣内先生は東京で深く調べていけば昔の原風景が残っているとおっしゃっていますが、富山では目に見える形で残っていると思いました。私は家具が専門ですが、大学ではインテリアも教えています。富山県に歴史的なものがあるおかげで、どんどんまちづくりに傾斜してしまって、今日ここにいるわけです。

<アントニン・レーモンド>

彼は、関東大震災前にフランクロイド・ライト(米)と一緒に来て、日本で暮らしながら近代建築(旧帝国ホテル等)を設計します。日本の何気ない風景に感動し、祭り、獅子舞、相撲、曳山などの文を残します(『私と日本建築』鹿島出版1967)。18年後に再び戻って来て、震災による日本の変化、日本文化が失われることを懸念して文章にしたものです。

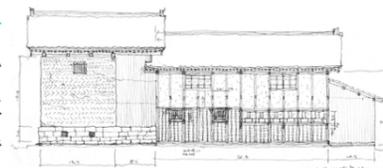


<カー・ポートの街並み>

富山に来て驚いたのは、県の「元気な雪国づくり」で調べたんですが、住宅団地が数年もするとカー・ポートの街並みに変わることです。車が普及して、しかも積雪地ですから当然かも知れませんが、果たして街並みとして本当にいいのでしょうか。玄関を出るとすぐに車があるので、歩行距離も少ない生活を送っていることになります。今日のテーマの一つである「道路と住宅」の関係を如実に表していると思います。

<氷見市仏生寺>

ここは、昨年から調査している氷見の仏生寺鞍骨です。氷見は魚が有名ですが、美味しい魚が獲れるのは里山があるから。この集落には納屋や蔵がいっぱい残っています。これはお金のある家ですが、道具、米、味噌と3つの蔵が連なっています。記録に残すため、実測して図面にしました。



<高岡市吉久>

石黒信由は、新湊が生んだ偉大な測量家ですが、これは彼が測量した吉久にあった加賀藩の重要な米蔵の図面です。敷地の水路は、庄川と小矢部川につながっています。この通りが「放生津往来」で、内川の放生津につながる通りです。松尾芭蕉もおそらくここを通ったのでしょう。これは、1961年の吉久の航空写真です。これは街並みですが、伝建地区を目指して地域の調査をしています。戸数は、最盛時の半分くらいに減っています。ここは私が事務所として買い、国の有形文化財に登録しました。中では、学生の作品を展示したりしています。この大きな建物は旧小杉旅館で、改修工事中です。



<木場>

東京には坂道が多いですが、私は大学時代、麻布十番の坂に入ったところで家具づくりをしていました。東京藝大は上野公園にあつて、通常は上野駅で降りるんですが、地下鉄で根津に寄り道して登校するのが好きでした。大学4年のとき家具をデザインするため、よく木場に行きました。当時はまだ、新木場への移転(1973年から始まる)の最終段階で、江戸時代に埋立られた古いまちが残っていて、私にとって非常に忘れ難い景色となりました。川ギリギリに木材倉庫が建ち並んでいて、これは船が丸太を引く光景です。内川は、明治40年の工事で庄川とのつながりが断ち切られましたが、それ以前は多分こんな光景が見られたのだらうと思います。

<ストックホルムのガムラスタン>

ここからは北欧に飛びます。ストックホルムの1kmほどまちはずれに、ガムラスタン(向こうの言葉で「古い街」という一画がありました。氷河で削られた土地が隆起したので複雑な入り江があります。このまち、実は「北欧のベニス」と呼ばれている港湾都市で、多くの観光客を集めています。密集して道路も狭く、街区も不整形なことから、市は再開発して新しい町をつくる計画を出しました。ところが住民は全く受け入れませんでした。「新しくしてしまったら、よそと一緒にになってしまう。古い町こそ自分達のまちなんだ」というわけです。新湊の参考になるかと思って紹介しました。

<新湊・内川について>

15年前、高岡(富山大学芸術文化学部)に来たとき最初に訪れたのが新湊・内川でした。独特の景観ですね。古い地図を見ると内川と庄川がつながっていて、放生津

と吉久が結ばれていることがよくわかります。

新湊の「何気ない風景」ですが、人々は寄り添うように暮らしています。その結果、人口密度が非常に高くなっているのは事実です。路地からは内川が臨めます。

＜檜大工さんとの出会い＞

内川には檜をつくっている「檜大工」さんの工場がありました。私は家具作家なので、堅くて丈夫な木を探しています。日本では堅い木はあまりないので困っていたところ、この檜大工を知りました。訪ねて行ったとき、ほとんど仕事はしておられなかったんですが、いろんな話を聞かせてもらいました。



富山新港の貯木場から運んで、トロッコに乗せ、工場へ入れて加工していたそうです。

これは折り畳み式の木製椅子ですが、蝶番は堅い丈夫な木でないといけません。これをデザインしたのは私の先生の先生である吉村順三です。必要な時に必要な数だけ出せる「究極の家具」だと思います。先生はアントニン・レーモンドと一緒に仕事もされました。



＜キーワードは「木密」＞

今後いろいろ議論していただきたいテーマがあります。それは「木密(もくみつ)」、木造密集地域のことです。木造住宅が密集している市街地が「木造密集市街地」、その中でも特に密集度の高い地区は2003年に「重点密集市街地」と規定されました。

放生津地区では、狭い間口、屋根の連なり(きれいですね)、小さな路地から見える内川、それから海に近づくにつれて狭くなる路地、などが特徴的です。この地区にある小杉旅館の修復・活用提案について、現在、学生たちと調査をしているところでもあります。

地域にとって何が資源になるかを私なりにまとめると、一つは「木密」のまち、二つ目は「伝統木造建築物の修復活用」(準防火地域の対策は課題)、三つ目は「歩くまち」(国も一日の歩数基準を提示していますし、私もまちなかを楽しく歩けるカートをデザインしています)、四つ目は「蔵の活用」です。

小杉旅館の修復・活用については、8月5日夜に発表会を行いますので、ぜひおいで下さい。

世界に誇りたい射水の魅力について



パネリスト

- 丸谷 芳生 富山大学芸術文化学部教授
- 宮崎 一郎 北前船新総曲輪夢倶楽部
- 永森 直人 旧北陸道アート in 小杉実行委員会代表
- 宮林 円華 (株)ワールドリー・デザイン kawaii 担当

コメンテーター

- 陣内 秀信 法政大学デザイン工学部教授

コーディネーター

- 明石 博之 カフェ・uchikawa六角堂 オーナー

＜はじめに～「内川さんぽ」感想＞

明石●進行は皆さまの協力次第ですので、よろしくお願いします。4年前、富山に1ターンし、ある空き家に一目惚れしました。頭の中では「こんなところにカフェつくって本当に大丈夫か?」と考えながら、心の方は「ぜひお前やれ、なんとかしてやってくれ!」という気持ちでした。で、六角堂をつくりました。判断は先になるんですが、今のところは地元の方にも支持されて店は続いています。



明石●この時間は、様々な専門家から、射水について語ってもらいます。皆さんには自己紹介をお願いしたいのですが、まずは陣内先生から「内川さんぽ」のご感想をお願いします。午前中1時間半ほど歩いていただき、先生の口から「ほ～う、凄い」という言葉を50回ほど聞きました。具体的によかったところを、ぜひお話し願います。

陣内●まず、六角堂のポジションが凄いいました。道が集まる角に建っています。家の角切りは火災復興で計画されたものかもしれませんが、日本ではあまりないことです。ここを見つけたというのは、大変な宝です。

明石●以上でよろしいでしょうか。

陣内●もう少し…。内川沿いに楽しく歩きましたが、両側の幅の広い岸辺を見ておかしいなと思いました。広がったのは20年ほど前の「HOPE計画」ですか? 建物が水辺ぎりぎり迫っているところがありましたが、ああいう状態だったという従前の様子が一部残っているのが面白いと感動しました。東京の木場でも建物は水面ぎりぎりでしたよね。表通りは大火の後で道がまっすぐになって広がりましたが、裏側に雁行する路地が見通しを防いで、密なコミュニティを形成しています。

明石●ありがとうございます。丸谷先生、木密って初めて聞いたんですけど、一般に使われる言葉なんですか?

丸谷●一般的かどうかは確かではありませんが、東京では木造密集市街地を減らそうとしています。「よそ者目線」と言われるとそれまでなんですが、私が驚いたのは狭い路地と内川の景色でした。実は「木密」をどう話そうか、実は悩んだんですよ。

＜路地っ子レベル判定＞

明石●御三方の自己紹介の前に、「路地っ子レベル判定」をしたいと思います。該当すると思ったら手を挙げて下さい。よろしいでしょうか?

レベル1: 路地を見ると、ついニヤニヤしてしまう

レベル2: 三度の飯より路地が好き

レベル3: 100mの路地を歩くのに10分以上かかる

レベル4: 怪しまれて通報されたことがある

レベル5: できれば猫に生まれ変わりたい



レベル5はないですね。今日はせいぜい、レベル4までということでしょうか(笑)。あとの3人の方はプレゼンテーションの資料をつくって来ていただいておりますので、スライドを見ながら、自己紹介をしていただきたいと思います。最初は、宮崎さんからお願いいたします。

＜パネリスト自己紹介＞

宮崎●いろんな活動していますが、今日はフィルム・コミッションを中心にお話しします。これは、海王丸パークから眺めた新湊大橋です。県のマップに、「日本のベニス」新湊内川と入れたら、映画関係者が冷やかに見に来ました。結局、高倉健さんの映画のロケが行われました。インドの「ブラピ」と言われる超有名な俳優が、内川をはじめ県内各地でロケをしました。彼は、川沿いの錆びたトタンが大好きで、これはその前で撮った写真です。『脳男』は臨港道路を3日間通行止めにして爆発シーンを撮影しました。映画は、やはり自分の地域に誇りを持つきっかけのひとつになればと思ってロケを誘致してきました。



宮崎●日本のベニスである理由を挙げてみましたので、陣内先生に、ぜひコメントをお願いしたいと思います。

①運河があり、船が係留されている。②船と人の営み(生活感)が見られる。③巨大寺社がある。④「放生津幕府」という時の政権があり、中世から栄えた。⑤海の商人の街であった。⑥アクア・アルタがある。⑦今夏の十楽市で仮装大会が行われる。陣内先生、いかがでしょうか?

陣内●一致していますね。ただ、⑦番の仮装大会、ヴェネチアでは冬なんですよ。

明石●せっかくですので、一目惚れした空き家に出会うきっかけくれたまち歩き絵図のことを、詳しく紹介いただけませんか。

宮崎●船も正確に描き込んでるのは、多分日本中での地図だけだと思います。水辺のまち新湊や川の駅で購入できます。

明石●続いて、永森さんをお願いしたいと思います。新湊勢が多い中で、小杉地区の活動を紹介していただきますので、長めで結構です。

永森●みなさん、こんにちは。「旧北陸道アート実行委員会」の代表をしております。今日のフォーラムのメインは、何と云っても新湊の内川にあります。射水市の事業ということで小杉も一人入れないといけないう配慮で、発表の機会をいただけてありがたく思っています。さらに付け加えておきますと、みなさんそれぞれプロですが、私の場合は行事に関わり出してそう長くありませんが、小杉の魅力を発信したいということで行事自体は13年続いてきました。私はそう詳しくはありませんが、「やってくれ」と言われて、議員をしていて「人から頼まれたことは断らない」ことをモットーとしているものですから、引き受けました。今日のフォーラムもそういうわけで引き受けてしまいました。



永森●写真はアートイベントの様子を並べたものです。左上は子ども達が泥団子をつくっているところです。小杉の魅力の一つに鏝絵がありますけれども、右隣はまちなかで鏝絵で描いたものを展示して歩いてもらう企画です。地元の方や子ども達に踊ってもらったり、まちなかでコンサートをしたりしています。メインは先ほど丸谷先生もおっしゃいましたが、旧町の古い家や生活空間を活用して、様々な美術作品を展示し、まちなか全体をギャラリーに見立てているわけです。旧北陸道自体は、歴史のある通りで様々な名所・旧跡も存在しています。今年も9月27、28日に開催しますので、是非みなさま方にも足をお運び願いたいと思っています。

明石●ありがとうございます。小杉のまちは歩いたこと



があるのですが、お薦めのまち並みや路地はありますか？
永森●北陸道をちょっとはずれますと、お寺があったり駄菓子屋が残っていたりします。お店がそれぞれ鏝絵の看板・標識を出しています。例えば、酒屋では酒瓶の鏝絵、時計屋には時計の鏝絵、といった具合です。

明石●ありがとうございます。続いて宮林さんをお願いしたいと思います。

宮林●株式会社ワールドリー・デザインのkawaii担当の宮林円華と申します。自分がかわいいというのではなくて、20代女子の視点で射水のkawaiiを発見し、毎日ブログで伝えるもので、平成25年、26年度の「射水ビューポイント発掘・発信事業」の一環です。私自身、新湊で生まれ育ちました。町内に曳山があって、お祭りに参加していたんですけど、参加者がだんだん減り寂しく思い、大阪の大学で観光を学び大阪のイベント会社で働いていましたが、この町を自分の手で守っていきたくて、2010年夏にUターンしました。
宮林●まちづくりにはいろんなやり方があると思うんですけども、私には何ができるのかなと考え、「今の私が伝えられるkawaii」を紹介しようと思いました。そして、「MACARON的kawaii理論」が生まれました。マカロンはみなさんご存知だと思うんですけど、17世紀に生まれたお菓子で、美味しくてみんなに愛されている、ちょっと古くて、現代風などいろんな性格を有しているのでマカロンにしました。kawaii理論は5つからなっていますが、詳しくはブログをご覧ください。

<MACARON的kawaii理論>

- ①伝統的かつ最先端
- ②一緒にあって、楽しいもの
- ③振り返ったときに、そっと「ほっこり」できるもの
- ④やっぱり、ハートとピンクはゆずれない
- ⑤まちの人たちの一途な気持ち

最後ですが、射水のkawaiiを撮り始めて1年、いろんな場所に行かせてもらいましたし、クリスマスに子どものいるお宅にムズムズ君と一緒にプレゼントを届けるイベントをしたり、ムズムズ君の誕生日（射水市ができた日と一緒に）を祝ったりしました。私はkawaiiという視点から射水市を紹介しましたが、もっと別の視点もあるんだろうと思います。

明石●どうもありがとうございます。Kawaii理論は、ご自身で考えられたんですか？これどこの学会で発表したらどうでしょうか。

陣内●日本人は多分に情緒的ですが、外国人は必ず客観化・理論化します。新しいものを発見するため、原点に当たるといこの理論はいいですね。理論化したことによって、同じものが全く違って見えてくるという効果もありますね。

明石●ありがとうございます。拍手が起こりましたよ。

<世界に訴えたい射水の魅力>

明石●ここからは「世界に訴えたい射水の魅力」の写真を、パネリストのコメント付きで紹介いたします。最初は僕ですね。題名は「ネックレス」としたんですが、岸壁にある船とのクッションです。普通はタイヤなどですが、これはロープを編んでいます。場所によって編み方や素材が違い、真中には雑草が生えています。アートだと思いました。次は黄土色のペンキが塗られた波板トタンで、イタリアの風景に見えませんか。

陣内●見えます。壁に存在感があります。



明石●錆びもいいですね。先生、路地っ子レベル判定5でもいいんじゃないですかね。

陣内●猫に生まれ変わりたいといえば。東京で猫のいるまちって、落ち着いた、無理をしないまちですね。

明石●次は永森さんの写真です。

永森●私、路地っ子レベル0ですので…。これは、今年4月12日にリニューアルオープンした竹内源造記念館に展示され、最高傑作と言われる「双竜」という明治末期の鏝絵で、砺波市の寺にあったものを移設したものです。

明石●宮林さん、kawaii鏝絵って？

宮林●この鏝絵、拝見しましたが、付けまつ毛がなくても目ヂカラがあるんです。



明石●こちらの方は？

永森●旧北陸街道沿いのイタリアンレストラン「ユニコネルモンド」の壁土を、子どもたちが塗っています。オーナー・森永さんの家はもとと造り酒屋で、酒蔵をレストランに改装する際にアートイベントの一環で行ったものです。

丸谷●蔵再生ワークショップで、泥団子を初めて体験しました。DNAが呼び起されて、最高の癒しになりました。

明石●ありがとうございます。時間がなくなってしまったので、スピードアップして。これは丸谷先生ですね。

丸谷●これは、先ほどの櫓工場のトロッコです。こちらは海側の細い路地です。私は昭和25年生まれですが、小さい頃こうした空間で遊んだ記憶があります。



丸谷●こちらは内川の連続立体写真で、あたかも「家の万華鏡」に見えます（8ページ上部・細長い写真）。

明石●毎年、定点観測的につくっていったら面白いかもしれませぬ。次は宮崎さん、お願いします。

宮崎●東橋からの内川で、高いビルは一つもありません。水面が左に緩くカーブしています。北陸街道沿いの大門にある玄関横腰壁の青海波の模様です。



明石●街道沿いにも、海の歴史が残っているんですね。次は、宮林さんの写真です。

宮林●竹内源造記念館近くにあったなまこ壁で、kawaiiと思いました。

陣内●かわいいを越えて、色っぽいですね。

明石●PCの壁紙にしているくらいお気に入りですね。

宮林●はい、そうです。こちらは下村のお寺です。石像の前に花が活けられていますが、造花なんです。「生花に負けない愛情の花」に、地域の人の一途さを感じました。



明石●ありがとうございます。宮崎さん、今度はkawaii目線でマップをつくったらどうでしょうか？

宮崎●いいですね。いま私は伝統産業の担当なのですが、伝統産業とkawaiiの融合も面白いですね。

明石●ありがとうございます。

<さいごに一言ずつ>

明石●気が付けばあっという間の1時間ですが、まとめるつもりは毛頭ありません。最後に、「世界に訴えたい魅力」や「具体的な行動」などを一言ずつお願いしたいと思います。まず、丸谷先生から。

丸谷●吉久でまちづくりをやっているだけでも、意思統一や取り組みのフィードバックをしていく必要性を痛感しています。今日のようなフォーラムは大事だと思います。

明石●しつこいようですが、今後「木密」は「モクミツ」とカタカナで書くことにしましょう。

丸谷●分かりました。

宮崎●地元のみなさんが自信を持ってまちづくりを進めていくことが重要だと思います。「日本のベニス」を20何年訴えて続けた結果、明石さんのように1ターンしてくださる人が出てきて、本当に嬉しく感じています。

永森●射水の魅力を存分に教えていただきました。実は小杉にいます、新湊は近いようでなかなか来る機会がありません。地域の資源そのものをさらに磨いていくことが重要だと感じました。

宮林●kawaii目線でお話をさせていただきましたが、一度訪れたところでも、再び行ってみると必ず新しい発見があるので、さらに新しい視点で地域を見つめていただきたいと思います。

明石●最後に、陣内先生お願いします。

陣内●今日は面白い話、刺激的なヒントばかりでした。運河沿いの川縁は、もともとは荷揚げ場だったんですね。HOPE計画で広くなってしまったそうですが、だからこそみんなが使える空間になったんです。ヴェネチアではそういう場所が、オープンカフェやオープンレストランになっています。日本でも規制緩和で、利用が促進されていくことになると思います。両側の川縁は恰好の空間です。それから空き家の再生・活用がこれからのわが国の大きな課題です。いわゆる文化財の保存と違ってもっと自由度が高いと思いますから、柔軟に考えていく必要があります。富山はこれだけ食材がいいので、先ほどの酒蔵を活用したレストランなどは、そのいい例だと思います。美味しいものをお洒落な空間でいただくのは楽しいものです。和風でもいいし、洋風でも構いません。日本では料理の選択の幅も広いと思います。

明石●ありがとうございます。ここで本音を発表しますが、実は陣内先生にお越しいただいたのは、内川、新湊、射水の虜になってもらい、情報を全国に発信してもらいたいと思ってのことです。先ほども拝見した先生の講演

資料の中に、今回の写真もぜひ付け加えていただけたら幸いです。そして路地っ子ランクを5にさせていただきます。
陣内●分かりました。

明石●ありがとうございます！フォーラムの隠し目標はこれで達成できたということです。あと5分程度ですが、会場から質問を受けたいと思います。

<会場から質問>

会場1●市内で観光業を営んでいます。大学で県外に出てUターンした人間ですが、帰って来て初めて内川が素晴らしいと感じました。「路地を観光に」と同級生に話すと、「お前は観光業をしているから思うかもしれないが、暮らしている立場だとそうは思わないよ」と言われます。住んでいる人に目を向けてもらえるような具体的なアイデアを教えてくださいませんか。

明石●ありがとうございます。大変いい質問ですね。どなたかお答えを。

陣内●ここはかつて廻船問屋で賑わった地域。外とつながっていて来訪者が多かったのも、もてなしと守ることを両立させながら栄えてきました。住宅の割合が高まるとともに、来訪者が減って来たのだと思います。住宅で暮らす人はよそ者が入って来るのを嫌がるようになりますが、そのままではまちの活力はなくなっていきばかりです。このことを考えていかななくてはならないですね。

丸谷●吉久のまちづくりでは「観光客」でなく、私たちのまちを見に来られる「まち並みの見学者」という捉え方をし、歓迎するようにしています。

明石●ありがとうございます。もう、おひと方。

会場2●丸谷先生と一緒に吉久のまちづくりに取り組んでいます。外から見に来られるだけでなく、それを住民にも見えるようにしないと、まちづくりはうまくいかないと思います。参考になる事例があれば教えてください。

明石●はい、これも重要な点ですね。住民に伝わらないと意味がないということですね。

丸谷●地元の人と一緒に回るのがいいのではないのでしょうか。改めて自分のまちの良さが再発見できます。

明石●今、内川でも地元の人参加して観光ボランティアと一緒に巡る「内川さんぽ」をしています。話しながら一緒に歩く機会をたくさんつくることだと思います。宮崎さん、水辺のまち新湊さんをはじめ、様々な人との出会いがなかったら、六角堂はできていません。人のネットワークが決定打となるのです。

これにてパネルディスカッションは終了となります。皆さん、どうもありがとうございました。



全国から集まった射水の写真を紹介」

「日常の風景も見方を変えれば輝く」という思いで、市内の日常の風景・スポットの写真を募集しました(5月1日~6月23日)。フォーラムでは、応募作品と応募者の思い、物語を紹介するとともに、中から数点を選び、パネルディスカッションで登壇されたみなさんからコメントをいただきました。ご応募・ご協力いただき、ありがとうございました。



「小さな鉄橋」(中野 吉明さん) / 万葉線の丸鉄橋 (新湊)
万葉線の丸鉄橋。この辺りは昭和30年代までは水郷地帯で水路が有り、稲束を積んだ笹船が通っていました。パブル期になると田んぼは宅地造成され、水路も道路に改良されました。道路面から鉄橋下部まで約2メートル、手が届き、頭上50~60センチの所を電車が轟音を立てて通り、幅の狭いガード下をギリギリに軽自動車通っていきます。ちなみに橋げたには昭和7年11月の名盤があります。

陣内●迫力ある写真ですね。まさに伝統と先端が交錯したkawaiiに通じるものがあります。



「内川モダン」(松谷 憲利さん) / 内川 (新湊地区)
夕日により紅色に染まるステンドグラス。

明石●昭和初期の頃のモダンな感じで、パラソルが似合いそうです。



「布と時を織り続ける工場」(竹内 真理子さん) / 大島地区
1934年設立の東洋紡庄川工場。裁縫も編み物も上手で、年中スカートをはいている祖母が勤めていた場所です。

永森●高校通学時いつも目にしていました。西に東洋紡、東に日本電工の工場が並んでいる懐かしい光景です。



「古民家と工場」(林 博さん) / 大島地区
近所のいつもの風景、50年以上も変わらない。古民家と工場のミスマッチが心よく感じる。年月とともに両者、味わいが深くなっていく。

宮崎●この写真、どこに着眼するかというと、道路のマンホールです。昔、川が流れていたことを物語っていますね。



「街道沿いのあずま建ち」(高原 昌弥さん) / 大門、熊野街道沿いのまちなみに残った、耐震改修工事を施して、古民家再生された「あずま建ち」の住宅。この二口地区の街道沿いにはまだ数棟は残っている

丸谷●再生されて100年は経っていると思います。さらに100年持つでしょうか。見守って行きたいです。

閉会お礼さっす

本郷 俊作
NPO 水辺のまち新湊理事長



今日は長時間にわたりフォーラムをしましたが、あっという間に終わりの時刻を迎えました。

基調講演をいただいた先生方、そして専門的な立場で発言をいただいたパネリストの方々、本当にありがとうございました。

<住んでいるから見えること、見えないこと>

私は日々、最後に質問をされた方と同じような気持ちを感じています。住んでいるからこそ見えるいろんな問題に悩んだりしています。今日はいろいろヒントをいただきまして、大変有意義でした。心から感謝いたします。

みなさんのお話は歴史的なんですが、我々はそういう見方をしてきませんでした。明石さんに講演してもらったときもそうで、地元としては最初「ええっ」とひいてしまったことを思い出しました。

<内川には日本のDNAを騒がせるものがある>

外部から内川に来られた方が、「いい、いい」とよく言われます。仕事で築地に行った時に、明治時代の築地の写真があったんですね。「あれ、どこかで見たことがあるなあ」と思ったら、昔の内川とそっくりでした。明治時代の港は、おそらく全国同じような風景だったんでしょう。それが全部なくなったのに、内川には残っているから、DNAが騒ぐのだらうと思います。私の友達も「いい、いい」って言うんですけど、何がいいのかと訊くと、「ともかくいいんだ」と答えになりません。

<少しでも多くの方に来ていただきたい>

それはともかくといたしまして、少しでも多くの方に内川へ来ていただきたいということで、毎年いろんなイベントをやっています。「内川十楽の市」は、今年は8月22日(金)~24日(日)に開催します。是非たくさん来ていただきたいと思います。

仮装大会、ベニスは冬だそうですが、こちらでは雪かきしながらやらなければなりませんので、それだけは勘弁願います。

本日は集まりのみなさん、ご協力いただいたみなさんに、心から感謝申し上げます。どうもありがとうございました。